

氏名（本籍）	ア	ベ	タケシ	毅（神奈川県）
学位の種類	博士（美術）			
学位記番号	博美第146号			
学位授与年月日	平成17年3月25日			
学位論文等題目	論文 造形表現における性的形態差と意味生成			
論文等審査委員				
（主査）	東京芸術大学	助教授	（美術学部）	布施 英 利
（論文第1副査）	”	教授	（ ” ）	越 宏 一
（副査）	”	”	（ ” ）	松 尾 大
（ ” ）	”	”	（ ” ）	高 橋 亨

（論文内容の要旨）

「男」と「女」の身体的特徴は、通常は異なったものとして認識されている。しかし、造形作品に表現された人体表象は、時に極めてその「性別」の判断が難しい場合がある。なぜならば、我々は視覚という感覚のみから、それらの人体表象の「性」を見分けなければならないからである。さらに、美術に表現された人体表象が両性具有的なものであった場合は、なおさら「性別」の認識は混乱を来すことになる。

この論文では、造形表現における両性具有的表現をめぐって、ミケランジェロ・ブオナローティの表現したメディチ家礼拝堂の「夜」の像がもつ身体造形から分析を始めた。「夜」の像は解剖学的にみて「男性的特徴」と「女性的特徴」が身体各部において独立して存在しているところに独自性がある。

「夜」の像の分析をするにあたって、この像を含むヌームール公ジュリアーノ・デ・メディチの墓碑のためにミケランジェロが書いた詩を取り上げ、そこに交錯配列法（キアスム）的表現が使われていることを確認した。交錯配列法とは、同等の価値を有した、異なる二つのものが互いに交錯することで成立する修辭的技法である。しかし、ミケランジェロは、詩作に限らず、美術における一つの造形原理として交錯配列法的な考え方を用いていたと思われる。それが結果として、「男」と「女」という対照的要素が一個体に表われた一因と考えられる。

ミケランジェロとほぼ同時代に生きたドナテルロの「ダヴィデ」、あるいはパルミジャーノの「弓を作るキューピッド」などにおいても「男性的特徴」と「女性的特徴」を判別しがたい部分がある。ミケランジェロがホモセクシュアルであったとする定説があるが、ドナテルロやパルミジャーノもホモセクシュアルであったとする研究がある。しかし、作品上の人物像だけを造形的に比較してみるならば、ドナテルロの「ダヴィデ」やパルミジャーノの「弓を作るキューピッド」は、愛らしい「美少年」の表象でホモセクシュアルという解釈が成立し易いが、ミケランジェロの「夜」の像からはそうした意味は感じ取れない。

ここで、「性」を形態から判断するとは如何なる作用であるか、ということがこの研究の問題提

起となる。

「性」を特定する場合、体表に現れた視覚的に観察可能な特徴によって識別されるか、視覚的に特定できない体内器官によって識別されるかに分類出来る。それ故に、人体像の「性別判断」には、二つの世界像が存在すると考えた。一つは解剖学に基づいた「生物学の世界」、それに反して、もう一つは、身体上の形態を視覚表象として解釈する「表象の解釈の世界」である。

造形作品における人物像の「性」に関する認識では、後者が主体となる。「表象の解釈の世界」では視覚的判断が優勢となり、認識における主観性が強化される。造形作品においては、「性」は実体を欠いて表象のみに存在しているので、本論では「男」「女」、また、それ以外の「性別」を示唆する用語全てを括弧付きで表記している。

さらに、西洋における両性具有の系譜としてアンドロギュヌス型とヘルマフロディトス型に分類した。精神的な両性具有性を意味するのがアンドロギュヌス型であり、解剖学的な両性具有を意味するのがヘルマフロディトス型である。西洋では歴史的にアンドロギュヌスが精神的な理想を意味する上位概念として、ヘルマフロディトスが奇怪な身体的結合を意味する下位概念として捉えられてきた。

具体的作例として、カラヴァッジョの絵画作品に表現された人物像をアンドロギュヌス型として捉えた。そして、アンドロギュヌス型の人物像がホモセクシュアリティと密接に結びつき易い性質があることを示した。

次に、ヘルマフロディトス型の代表的作例として、二体のヘルマフロディトス彫刻を取り上げた。さらに、神話のヘルマフロディトスとは無関係なミケランジェロの「夜」の像を、その身体的特徴からヘルマフロディトス型へと分類した。ヘルマフロディトス型の人物像においては、ホモセクシュアリティという意味よりも、「性シンボル」の対照が際立っている。

アンドロギュヌス型は絵画に多く、ヘルマフロディトス型は彫刻に多いことに言及しつつ、絵画と彫刻における両性具有像の表現形式の違いを明らかにした。絵画においては、「再現性の密度」が高く、画面全体を支配している雰囲気的人物像の「性」の認識に影響を与える。しかし、彫刻においては身体の造形的要素だけで「性」の特定が為される。

造形表現において「男」と「女」の特徴が共存している両性具有像とは、必然的に「性」の攪乱を伴うものである。アンドロギュヌス型において「性」の攪乱は、顔の表現に顕著であり、ヘルマフロディトス型においては、身体上に顕著である。しかし、「性」の攪乱をもたらしながらも、同時に何らかの解釈を見る者に必然的に働きかけてくる。両性具有というものは、視覚的に性的二型性を逸脱しているにも関わらず、その中間的「性」に対応した言語が存在しない。しかし、「性」が人間にとって極めて重要であるが故に、その言語と対応しない視覚表象にさえ何らかの解釈を求めるのである。それは、視覚が「性」の認識において極めて重要な役割を果たしているからに他ならない。

結論として、ミケランジェロの「夜」の像から如何なる解釈が可能であるかを論じた。それは、身体上に「男女」の特徴が明瞭に混合している畸形的表現から起こる不安の表象であるとともに、「男女」の混合が結婚から生殖へと至るものとして象徴的に機能している。この意味の二重性は、ミケランジェロが夜という時間を「死」と「誕生」の比喩として表現しているソネットにも認められるものである。

本論はミケランジェロの「夜」の像に対する一つの新しい解釈であるとともに、視覚表象における性的形態差が生み出す意味についての理論化でもある。